

以前寺報に「ジャネの法則」といって年齢を重ねる度に時間の経過が早く感じる法則があることを紹介しました。いかがですか？もう今年も半分が過ぎました。早く感じませんか？時は平等に経過しているはずなのに受け取る側によってその感じ方は千差万別です。

今年は、戦後 70 年目を迎えます。先日ある喫茶店でコーヒーをいただいておりますと、隣の席で 3 人のご高齢のご婦人方が楽しそうにおはなしをされておりました。私は喫茶店に一人で行くと、とくに隣の席の方の話は気にはならないのですが、何故かそのときはお隣の方々のお話が気になりすこし耳を傾けさせていただきました。

そのご婦人方は、小学生時代のお話をされていました。

「最近の学校の先生たちは、子供を叩くことができないそうだねえ」・「私たちの子供の頃の先生はおっかなかったよねえ」・「そうそう」・「ちょうど戦争が終わって軍隊帰りの人たちが先生をしたりしてたもんねえ」・「あれは軍隊式の叱り方が

抜けなかったんだらうねえ」・「うちの旦那は先生に吹っ飛ばされて腕が折れたんだけどそのことを家に帰っても親にいえなかったんだって。いうと今度は、”お前が叱られるようなことをするからだ！”と親からも叱られるのが怖かったそうだよ。結局あとであんまり痛いもんだから病院に入ったら折れているっていわれたそうだよ。その後遺症がずっと残って年取ってからサポーターが離せなかったんだよ」・「まあしかし戦争は二度といやだねえ」・「あ、そうそうちょっと心残りなことが。旦那が亡くなった時、火葬の前にその腕にいつも着けていたサポーターを棺の中に入れてやるのを忘れたんだよ。今頃困って探しているんじゃないかって(笑)」

といったような内容を 3 人で明るい雰囲気の中懐かしむように話されていました。私は盗み聞きをするように申し訳ない気持ちもありましたが、当時の学校や家庭の状況が鮮明に伝わってくるようなお話に大変勉強になるところがありました。また、亡くなったご主人の棺に入れ忘れたサポーター

の話は、後で考えさせられる内容でもありました。

浄土真宗では、「ご冥福をお祈りいたします。」という言葉は使いません。ご冥福の「冥」という字は「暗い」という意味があり「冥福」とは「暗い世界の幸せを祈る」という意味があります。この考えですと、今生きている世界が明るく、死んだ世界は暗いという意味になります。浄土真宗の死の世界は「浄土往生・俱会一処」といわれている世界です。死後は暗い世界ではありません。むしろ暗くさせない阿弥陀如来様の金色に輝く浄土に生れ苦しむ人々を救いすべてのいのちと一緒になれる世界です。もちろん愛する先に逝かれた方とも必ず出遭あえる世界です。「このことはすべてが阿弥陀様の側でご用意されていたことだったんだ。有難うございました。」

という気持ちで称えさせていただくのが浄土真宗のお念仏です。「他力本願」とは阿弥陀様の一人働きに感謝させていただくということです。南無阿弥陀仏